

## T-793 取扱説明書

T793-2402

お買い上げありがとうございます。  
ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い  
下さいますようお願い申し上げます。  
本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため、本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じた、いかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

### 製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時間精度：平均月差 ±30 秒以内 (気温 25℃で使用した場合)  
(電波時計による時刻修正を行わない場合)
- 表示精度：±1 秒以内 (電波受信による時刻修正の直後)
- 使用温度範囲：0 ~ +40℃ ※結露なきこと (外観 / 機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用電源：専用アダプター AC100V 50/60Hz 0.2A、出力：DC4.5V 150mA
- 消費電力：0.675W
- 補助電池：コイン型リチウム電池 (CR2032) 1 個 (電池別売)
- 補助電池電池寿命：約 5 か月 (AC 電源を使用していない場合)
- 電波受信：40KHz/60kHz のどちらか受信しやすい電波を受信し、現在時刻に合わせる  
●自動受信 (最多 4 回 / 1 日) ●手動受信
- 時刻表示：12 時間制表示、または 24 時間制表示
- カレンダー表示：2010 年 1 月 1 日 ~ 2099 年 12 月 31 日 (フルオート)
- 温度計：表示範囲 -9.9 ~ +50℃  
※-9.9℃より低いと [LLL]、+50℃より高いと [HH.H] を表示  
精度 ±1℃ (0 ~ +40℃の範囲)、±2℃ (左記以外)
- 明るさ切替機能：3 段階
- ダブルアラーム機能：電子音 (3 分間オートストップ)
- スヌーズ機能：5 分 (8 回繰り返し可能)

### 温度表示機能について

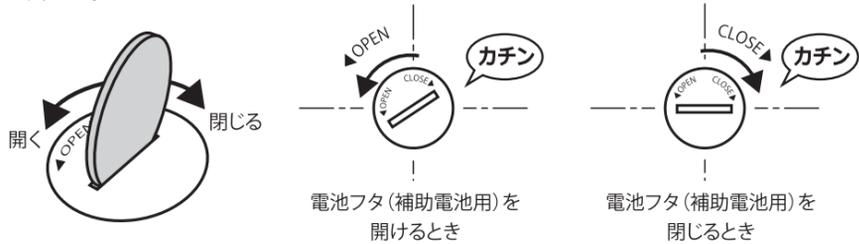
- 本製品は工業用(業務用)計測機器として使用する目的で製造されたものではありません。温度表示機能は、センサーが本体内部に設置されているため、表示が安定するまでに時間がかかる場合があります。
- 他の製品、温度計との誤差が発生する場合があります。
- 使用温度範囲を超えた場合、故障の原因となりますので、ご注意ください。

### 補助電池について

- 補助電池は、停電などの一時的にAC電源からの通電が止まった場合の、時刻のバックアップ用です。補助電池を使用する事で、AC電源からの通電が止まった場合も、通電後は経過時間を加えた時刻を表示する事が可能となります。
- ※停電などで通電が遮断された後、補助電池を使用していない場合は、再通電すると時刻が12:00で表示します。このような場合は、再度設定し直して下さい。
- ※補助電池が無い状態で通電が遮断された場合でも、製品内部の電気が完全に放電されていなければ、再通電したときに時刻のバックアップが働くことがあります。

### 電池フタ(補助電池用)の開閉方法について

電池フタ(補助電池用)を開けるときはコイン等を使用して ◀OPEN の方向に回し、開けて下さい。  
電池フタ(補助電池用)を閉じるときもコイン等を使用して CLOSE ▶ の方向に「カチン」と音がするまで回して下さい。



### 補助電池の入れ方

補助電池を入れるときは、⊕表示を上にしてツメ部分の下に差し込むように入れ、反対側の端を押して下さい。



### 補助電池の外し方

補助電池を外すときは、切り欠き部分にドライバー等の先の細いモノを差し込んで引き上げて下さい。



### リセット操作について

電源を入れ直した直後は、静電気や内部に残っている電流により、誤動作(誤表示) する場合があります。電源を入れ直した後に表示がおかしいと感じた場合は、RESET ボタンを押して下さい。  
※RESET ボタンは、伸ばしたクリップの先などで押して下さい。針などの先端の鋭利なものを使用すると、ボタンが破損しますのでご注意ください。

## 専用アダプターのご注意

### 警告

死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容

- 必ず付属の専用アダプターを使用する  
他のものを使用すると、故障や火災の原因になることがある。
- 専用アダプターを接続するときは、コンセントや配線機器の定格を超える使い方をしない  
定格を超えて使うと、発熱や火災の原因になる。
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んで使用する  
差し込みが不完全だと、火災や感電の原因になる。
- 本体や専用アダプターから発熱・煙・異臭などがするときは、直ちに専用アダプターをコンセントから抜く  
そのままにすると、感電や火災の原因になる。
- 電源プラグおよびコンセントの差し込み口のほこりを定期的にとる  
ほこりがたまると、絶縁不良となり、火災の原因になる。
- 使用中の専用アダプターがふれられないほど熱くなったときは、コンセントから抜いて使用を中止する
- 電源プラグは主遮断装置であり、万一の事故や故障に備えるために、電源プラグはよく見え、容易に手が届く位置にあるコンセントに接続する

- 専用アダプターを布団などでおおった状態で使わない  
熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となる可能性がある。
- 雷が鳴りだしたら、本機や専用アダプターにふれない  
感電の原因になる。
- ケーブルを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしない  
ケーブルが破損して、感電や火災の原因になる。
- 専用アダプターやケーブルが痛んだときは使用を中止する  
そのまま使用すると、感電や火災の原因になる。
- 電源コードを束ねたり、結んだ状態で使用しない

### 注意

障害を負う、または物的損害が発生する可能性が想定される内容

- 長時間使用しないときは、専用アダプターをコンセントから抜く  
安全のため専用アダプターを取り外す。
- 専用アダプターのケーブルを引っ張らない  
断線を防ぐため、コンセントから抜くときは、専用アダプター本体を持つ。

- 使用中の専用アダプターに長時間ふれない  
低温やけどの原因になる。

## 表示画面のご注意

### 注意

障害を負う、または物的損害が発生する可能性が想定される内容

- 表示画面を凝視しない  
目に悪影響を及ぼす恐れがあります。

## 電波時計について

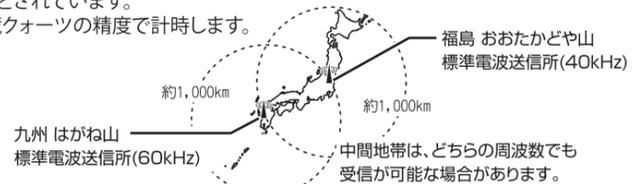
電波時計とは  
標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。  
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは  
情報通信研究機構 (NICT) が運用している時刻情報をのせた電波です。標準電波送信所は、福島県の「福島局:おたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にある「九州局:はがね山標準電波送信所」の国内 2 か所にあります。  
※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波の送信停止について  
標準電波は毎時15分と45分から各1 分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波(送信停止) することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

日本国外でのご使用について  
本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場合があります。あらかじめご了承ください。

電波の受信範囲について  
送信所からおおむね半径1000 kmとされています。  
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。



### 電波を受信しにくい環境

- 次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。
- 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
  - ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
  - 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
  - 金属製の雨戸やブラインドの近く
  - 高压送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
  - 自動車、電車、飛行機などの中
  - 家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
  - スチール机などの金属製家具の上や近く
  - 朝・夕の時間帯や雨天のとき
- ※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作をして深夜の時間帯や使用する場所を変更してご使用下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準時グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス <https://jyy.nict.go.jp>

### 自動電波受信機能について

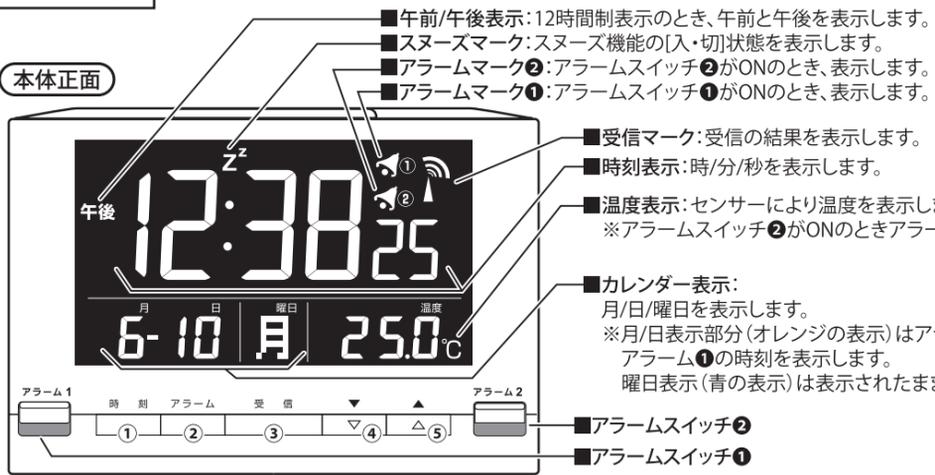
本製品は、時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

### 受信の状態について(受信マークの表示例)

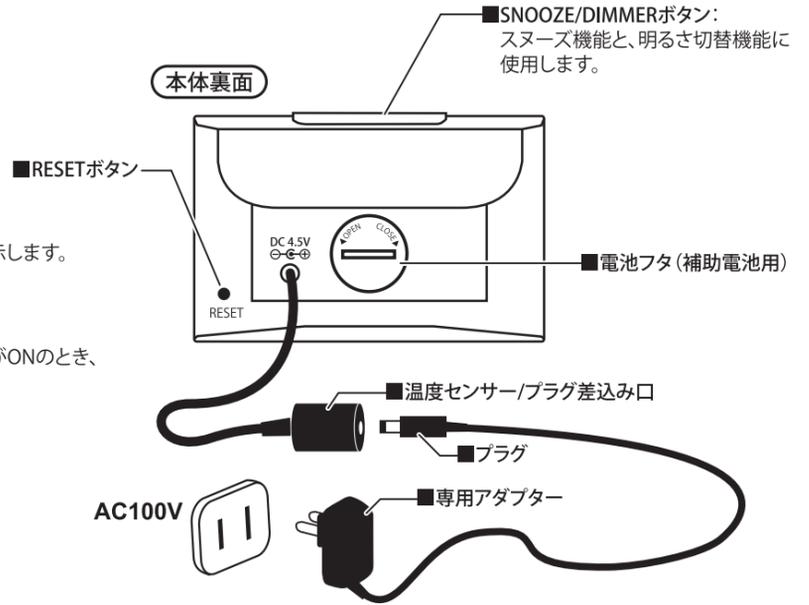
- 点滅中 ■受信中(電波を探している状態)です。
- 点灯 ■受信に成功して時刻/日付修正を終了しています。  
※次の受信開始まで点灯し続けます。
- 消灯 ■受信に失敗して終了しています。  
※次の受信開始(点滅)まで、表示されません。

注意

表示画面を凝視しないで下さい。目に悪影響を及ぼす恐れがあります。



- ①時刻ボタン: 時刻設定に使用します。
- ②アラームボタン: アラーム設定に使用します。
- ③受信ボタン: 手動受信と受信停止するときに使用します。
- ④▼ボタン: 設定操作中に1回押すごとに項目を減算します。
- ⑤▲ボタン: 設定操作中に1回押すごとに項目を加算します。



ご使用方法

- ①表示ラベルを剥がして下さい。
- ②温度センサー/プラグ差込み口に、専用アダプターのプラグを差し込んで下さい。
- ③専用アダプターをコンセント(家庭用電源AC100V)に差し込んで下さい。  
 →「ビビビ」と確認音が鳴り表示が点灯し、本体が起動し、電波の受信を開始します。  
 ※受信中は受信マークが点滅します。  
 ※受信には最長10分かかります。
- ④受信の結果を確認して下さい。※本書「受信の状態について」を参照。  
 ●受信に成功すると、受信マークが点灯して、自動的に時刻と日付を修正して表示します。  
 ●受信に失敗すると、受信マークが点滅します。時刻と日付は修正されません。



アラームの止め方 / スヌーズ機能

アラームを止めるには3通りの方法があります。(アラーム①/アラーム②共通)

1. アラームを完全に止める
  - アラームが鳴っている方のアラームスイッチをOFFの位置にする。  
 →各アラームマークが消灯し、アラームが鳴り止まります。
  - SNOOZE/DIMMERボタン以外のボタンを押す。  
 →アラームが鳴り止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。アラームマーク①②は点灯したままです。  
 ※アラームマーク①②を消灯するには、アラームスイッチ①②をそれぞれOFFの位置にしてください。アラーム機能が解除されます。
2. アラームを一旦止め、約5分後に再度アラームを鳴らす(スヌーズ機能)
  - アラームが鳴っている間にSNOOZE/DIMMERボタンを押すと、アラームが一旦鳴り止まり、5分後に再び鳴り出します。  
 ※スヌーズ機能中はスヌーズマークZとアラームマーク①②が点滅します。  
 ※スヌーズ機能は8回繰り返すことができます。  
 ※スヌーズ機能中にSNOOZE/DIMMERボタン以外のボタンを押すと、スヌーズ機能は解除されます。  
 ※アラームが再び鳴らないようにするには、アラームスイッチ①②をそれぞれOFFの位置にしてください。アラーム機能が解除されます。
3. アラームを自動的に止める(オートストップ機能)
  - アラームは鳴り出してから3分で自動的に止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。  
 ※アラームマーク①②は点灯したままです。

電波受信ができなかった場合は...

- ①手動で時刻を設定し、朝までそのまましておく  
 本書「手動で時刻を設定する」を参照して、現在時刻に合わせて時刻を設定し、一晩そのままにしておきます。  
 ※一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと、受信できる可能性が高くなります。
- ②設置場所を変える/受信をやり直す  
 本書「電波時計について」の「電波受信しにくい環境」と「手動受信について」を参考に、設置場所を変えて、再度、受信させて下さい。  
 ※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

明るさ切替機能について

通常時刻表示のとき、SNOOZE/DIMMERボタンを押すと、表示の明るさを切替えることが出来ます。  
※明るさは、[明るい]→[暗い]→[消灯]の順に切替わります。

アラーム時刻の設定(ダブルアラーム機能について)

注意 ※設定中の点滅は約5秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して、通常表示に戻ります。



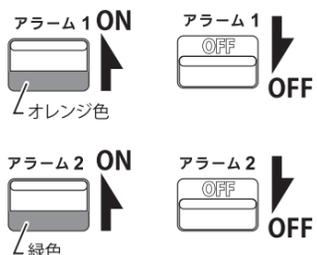
- 本製品は、アラームが鳴る時刻を2つ設定することが出来ます。
1. 設定モードに入る
    - ①通常時刻表示の時に、アラームボタンを押すと、カレンダー表示が切り替わり、アラーム①の時刻が表示し点滅します。
  2. アラーム①を設定する
    - ②▲ボタン/▼ボタンを押して、アラーム①の時刻を設定します。  
 ※▲ボタン/▼ボタンは長押しで、加算減算を早くできます。  
 ※アラーム時刻の設定は[分]単位で行います。
    - ③アラーム①の時刻設定が終了したら、アラームボタンを押します。  
 →温度表示が切り替わり、アラーム②の時刻が点滅します。
  3. アラーム②を設定する
    - ④▲ボタン/▼ボタンを押してアラーム②の時刻を設定します。
    - ⑤アラーム②の時刻設定が終了したら、アラームボタンを押します。  
 →通常時刻表示に戻り、設定が完了します。  
 ※アラーム時刻は[秒単位]の設定はできません。  
 ※[午前]と[午後]を間違えないように注意して下さい。

ダブルアラーム機能について

- アラーム①とアラーム②を同じ時刻に設定した場合  
 →両方のアラームが同じ時刻に鳴り出します。  
 ※両方のアラームが鳴っている間に片方のアラームスイッチをOFFの位置にするともう片方のアラームだけが継続します。
- 片方のアラーム時刻を、もう片方のアラームが動作している時刻に設定した場合  
 →先の時刻に設定したアラームが鳴り出した後、後の時刻に設定したアラームが鳴り出します。
- 片方のアラームのスヌーズが機能している最中にアラーム時刻を設定した場合  
 →スヌーズ機能は解除されます。  
 ※両方のアラームが鳴っている間にSNOOZE/DIMMERボタンを押すと、両方のアラームが同時にスヌーズ状態になります。  
 ※スヌーズ機能中にSNOOZEボタン以外のボタンを押すと、スヌーズ機能は解除されます。

アラームの鳴らし方

- アラーム①を鳴らす  
 アラームスイッチ①を矢印↑の方向に移動すると、画面左下にアラーム①の時刻とアラームマーク①が点灯し、アラーム①がONになります。  
 →設定した時刻になると、アラームが鳴り出します。
- アラーム②を鳴らす  
 アラームスイッチ②を矢印↑の方向に移動すると、画面右下にアラーム②の時刻とアラームマーク②が点灯し、アラーム②がONになります。  
 →設定した時刻になると、アラームが鳴り出します。



※アラームが鳴っている間、アラームマーク①②は点滅します。

手動で時刻を設定する

注意

※設定中の点滅は約15秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。  
※曜日は年(西暦)・月・日を設定すると自動で設定されます。

例: 2024年6月10日(月)午後12時38分00秒を設定する場合



1. 設定モードに入る
    - ①通常時刻表示のときに、時刻ボタンを3秒以上押し続けると、[12/24時間表示切替]の設定画面が点滅し、時刻/日付の設定モードに入ります。
  - 2.[12/24時間表示切替]を設定する。
    - 時刻表示部分が12/24時間表示切替設定表示に変わります。
    - ①[12/24時間表示切替]が点滅している間に▲ボタン/▼ボタンで12時間制表示(12Hr)または24時間制表示(24Hr)を選択して下さい。
  - 3.[年(西暦)]を設定する
    - ①[年(西暦)]が点滅している間に▲ボタン/▼ボタンで[年(西暦)]を合わせて下さい。
    - ②時刻ボタンを一度押して下さい。→[月]部分が点滅します。
  - 4.[月]を設定する
    - ①[月]が点滅している間に▲ボタン/▼ボタンで[月]を合わせて下さい。
    - ②時刻ボタンを一度押して下さい。→[日]部分が点滅します。
  - 5.[日]を設定する
    - ①[日]が点滅している間に▲ボタン/▼ボタンで[日]を合わせて下さい。
    - ②時刻ボタンを一度押して下さい。→[時]部分が点滅します。
  - 6.[時]を設定する
    - ①[時]が点滅している間に▲ボタン/▼ボタンで[時]を合わせて下さい。
    - ②時刻ボタンを一度押して下さい。→[分]部分が点滅します。
  - 7.[分]を設定する
    - ①[分]が点滅している間に▲ボタン/▼ボタンで[分]を合わせて下さい。
    - ②時刻ボタンを一度押して下さい。  
 ※[秒]は、[分]の設定時に▲ボタン/▼ボタンを押すごとに00秒に設定されます。
- 以上で設定が完了します。

手動受信について

電波受信が終了(電波マークが点灯、または消灯)しているときに受信ボタンを3秒以上押し続けると、電波受信を開始します。  
※電波受信中に受信ボタンを3秒以上押し続けると電波受信を終了します。